

第4学年 総合的な学習の時間年間活動企画書

1、年間テーマ「環境守り隊」

2、年間目標

地域の人たちと一緒に活動したり、実物に触れ合ったりすることを通して、世の中の環境問題について知り、身近な環境についての課題を見つけ、課題の解決に向けて適切な方法を選択し、仲間と協働的に活動したり、自分の思いや考えを表現したりできるようにする。

3、年間テーマについて

(1) テーマ設定の理由

・湊町の海に関する学習を3年生で実施してきたため、その学習を発展させていきたい。まずは湊町の海から環境への意識を高め、広く環境問題について考えさせたい。最終的には、身近な環境問題への課題を見つけ、解決するための行動が取れるようになってほしいと考えた。地域と密着し、地域の人材や教材を活用し学習を進めることで、「自分事」として課題を発見するなど意欲的に学習に取り組むことができるのではないかと考えた。

(2) 児童の実態 (男子20名、女子16名 計36名)

○人と関わったり、植物を育てたりすることが好きな児童が多く、前回の総合的な学習にも非常に前向きに取り組む児童が多かった。

○理科や社会の学習に意欲的に取り組む児童が多い。理科や社会の学習とタイアップさせて学習を進めるのがよいと考える。

▲物事を順序だてて考えることや、自分の考えを言葉で表現することを苦手とする児童が多い。

▲自分たちの町についての理解はだいぶ深まり、愛着も出てきたが、環境問題や海洋についての概念的な知識の習得にはまだまだ至っていない。ICTや図書館を活用しつつ、自分たちの学習のテーマに関わる人やその人たちの思いに触れながら学習することで、モチベーションを維持しながら、概念的な知識の習得にも力を入れていきたい。

(3) 教師の思いや願い・手立て (研究仮説との関連)

■難しい知識が多いため、専門家と上手に関わりながら学習を進めることで知識を習得しやすくなることを考える。

■人や地域とつながることの大切さを理解し、自分たちにできることを考え、仲間と協力して課題の解決ができる児童を育てたい。

→ICTを話し合いやグループワークの際に活用し、協働的に学習を進める。

■環境というと漠然とした学習になってしまいがちなので、自分たちの生活と密接に関わっているという意識を常に持ちながら学習を続けられるように進めることが探求的な学習につながると考える。そのために、水質調査や、膨大な量の情報を整理するなど、体験的な活動や協働的な学習を取り入れる計画を立てていきたい。

4、学びを深めるための素材(地域・学習)

【地域】

漁協/海/農家/歴史的建造物/伝統行事(ばか面)

【学習】

住みよいくらし/くらしと水/ゴミの処理と利用/県内の特色ある地域とくらし(社会)

自分たちの地域の環境や様子や働く人々の思いなどについて理解することができる。

分類をもとに本を見つけよう/リーフレットで知らせよう/新聞を作ろう/調べてわかったことを発表しよう/(国語)

目的や伝えたいことに合わせて、伝える方法を考えたり、必要な情報を集めたりすることができる。

相互理解、寛容/勤労、公共の精神/よりよくいきる喜び(道徳)

地域で働いている人の思いを理解したり、地域の人々のために進んで行動したりすることができる。

5、評価規準

1:知識及び技能

・人や地域とつながることの大切さ、環境を守る人の思いなどについて理解している。(この単元を通して習得できる概念的な知識)

・調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。(自在に活用することが可能な技能)

・私たちの生活は環境問題と密接に関わっており、環境問題への理解は、環境を守る人とそれらを支える私たちの生活によるものであることを知るために行ってきた探求的な学習の成果であることに気付く。(探求的な学習のよさについての理解)

2:思考力・判断力・表現力等

・調査して分かったことから問題を見つけて課題を設定するとともに、課題解決の方法やその手順について考えることができる。(課題の設定)

・課題を解決するために必要な情報を適切な方法で収集することができる。(情報の収集)

・収集した情報を他者と交換しながら、内容を整理したり分析したりして、次の活動に生かすことができる。(整理・分析)

・相手や目的に応じて、考えや情報を分かりやすく表現することができる。(まとめ・表現)

3:学びに向かう力、人間性等

・自分で設定した課題の解決に向け、進んで探究活動に取り組もうとしている。(自己理解・他者理解)

・異なる意見や他者の考えを受け入れ、協働的に課題を解決しようとしている。(主体性・協働性)

・自分の生活を振り返り、探究したことをもとに、今後の生活に生かそうとしている。(将来展望・社会参画)

8、年間活動計画

(総時数70時間)

第1部

「身近な環境問題について考えよう
～三番瀬から考える環境問題 Part1水～」
(35時間)

- ・「環境問題」って知ってる?(1)
- ・「なりたい自分」を考えよう(1)
- ・「環境問題」ってなんだろう?(3)
- ・自分たちの身近にある環境問題にはどんなものがあるのだろうか?(2)
- ・三番瀬環境学習館に行って話を聞いてみよう(2)
- ・「水質汚染」とは?船橋の水は大丈夫?(2)
- ・水質調査の結果から考えよう(1)
- ・船橋の水質に詳しいプロに話を聞いてみよう(2)
- ・聞いたことを整理しよう(1)
- ・自分たちにできることは何だろうか(2)
- ・実践するための計画を立てよう(2)
- ・自分たちにできる取り組みを実践してみよう!(6)
- ・実践したことを人に伝えよう(10)
- ・ここまでの学習をふり返ろう(2)

第2部

「自分たちの環境を守り隊!
～身近に起きている環境問題とは?
Part2ごみ問題～」
(35時間)

- ・改めて環境問題とは何だろうか?(1)
- ・地球温暖化ってどんな問題?(3)
- ・森林破壊とはどんな問題?(2)
- ・大気汚染とはどんな問題?(2)
- ・自分たちの社会活動ってどんなこと?(2)
- ・ゴミを出す、電気を使うも社会活動!?(2)
- ・ゴミを減らす取り組みにはどんなものがあるのだろうか(4)
- ・自分たちにできる取り組みを考えやってみよう(8)
- ・ここまでの学習の成果をまとめよう(5)
- ・1年間の学びをふり返ろう(2)

予備6時間

昨年一年間の反省

- 三番瀬環境学習館の学習は、4年生でやることになっているが、3年生におろしてもらえると助かる。
- 海光物産の大野さんのご協力は本当にありがたかったので、ぜひ来年度も継続されるとよいと思います。きっとかなり協力してくださると思います。
- 三番瀬の生き物にテーマをあてるなら、ぜひ生き物と触れ合わせたい。そうすると学習計画の前半にそれを持ってきて導入するとよいと思います。冬には生き物がいなくなります。そう考えると、前半は三番瀬の生き物に触れて、なぜこんなに豊かな環境があるのか、他にどんな生き物がいるのか、スズキが日本一！それを支える海光物産大野さん で学習を進め、後半戦は海苔すき体験ができるので、三番瀬の高級海苔に焦点を当てて学習を進めると学校行事にもうまく絡めながら、負担なく海洋教育にも取り組めると思います。
- 生き物を借りたり、飼育したりするには、漁協に協力してもらおうとよいと思います。また、船橋市役所農林水産課の梅田さんも非常に協力して下さります。
- 後半戦の海苔について探求的に学習していくと、必ず「環境」に目が向く瞬間があるので、SDGS などの環境問題に少し触れていくと、4年生への学習にスムーズに繋がります。今年度も前半戦のうちから環境問題にかなり興味を示している児童が多くいました。
- 今年度は他学年交流が難しかったので、大野さんへの発信、QRコードを用いてパンフレットの紹介を低学年の子にするみたいな形しかできませんでしたが、個人的には、授業参観やオープンスクールなどの機会に当ててもよいかなと思いました。
- 今年度は海苔屋さんとあまり繋がれなかったので、来年度は繋がりが持てるとうよいと思いました。そして、ぜひ海苔を子どもたちに食べさせてあげたい！
- 指導課松林先生にもご指導いただきました。

以上ざっと書きました。海洋教育の絡みもありますし、校外行事が多い学年なので、いかに負担なく、効率よく、子どもたちの学習に繋がられるかが鍵だと私は思って1年取り組みました。何かありましたら板垣までお声がけください。